

全作物共通

3週目は平年と同様に曇りや雨の日が多く、4週目は数日の周期で変わる見込みです。平均気温は平年並か高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです。

- ①ハウスは高温障害に注意して管理します。適切なかん水と追肥・葉面散布を行い、草勢維持と収量及び品質の安定に努めましょう。
- ②遮光資材を利用する場合は、曇天時の被覆は避け、過度な遮光とならないように注意しましょう。
- ③高温期は収穫後の鮮度や内部品質が低下しやすいため、朝夕の涼しい時間帯に収穫し、速やかに倉庫や予冷庫に搬入しましょう。
- ④病害虫の発生に注意します。葉裏や花卉、生長点の観察など発生予察を行い初期防除に努めましょう。高温時の薬剤散布は薬害を生じやすいため、高温となる時間帯を避けて夕方散布に努めましょう。
- ⑤高温期の作業時には、こまめな水分補給と休憩をとり、熱中症対策を心がけましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和4年7月6日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

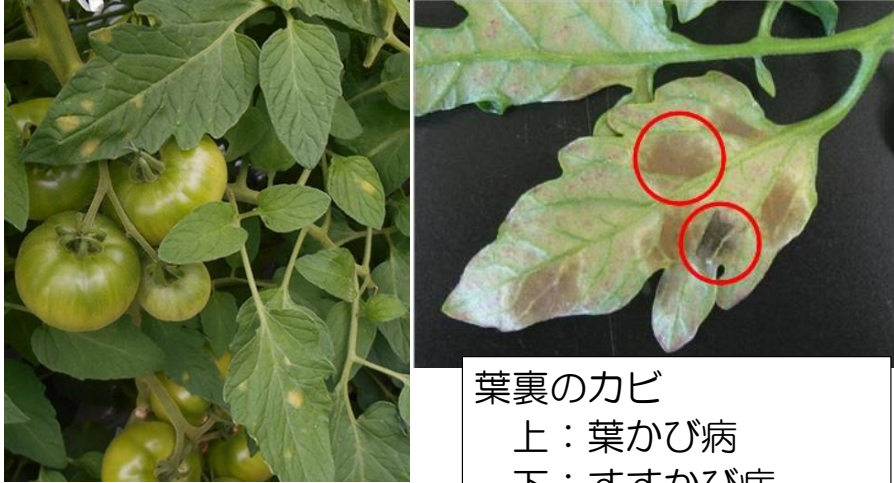
■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■

【野菜の衛生管理編】

—食中毒の発生を未然に防ぐために 栽培編—

食中毒を起こす微生物を「付けない」「増やさない」ために

- ・作業者 : 野菜に触る前やトイレの後など、必ず石けんで手を洗う。
下痢、おう吐などの症状がある場合は、野菜に直接触れる作業をしない。
- ・栽培に使う水 : 水路やその周辺を定期的に点検し、適宜、整備・清掃する。また、使用前に濁りや異臭がないことも確認する。
収穫一週間以内の生で食べられる野菜(収穫部位)に対しては、安全性を確認した水、飲用に適した水等を使うように努める。
- ・農機具や資材 : 清潔に保ち、他の目的には使わない。
- ・ほ場や施設 : 野菜残渣などの廃棄物をほ場や施設、その周辺に放置しない。

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病害虫 生理障害名		
葉かび病 すすかび病		
発生状況	葉裏のカビ 上：葉かび病 下：すすかび病	
少発生		
発生時期	6月中旬～	
6月中旬～	葉表の病斑（葉かび病）	

発生の状況・要因

- ミニトマトの下葉で、すすかび病の発生が少し見られている。
- 両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。
- 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。

対 策

- ハウスの換気に努め、下葉の摘葉により通気性を確保する。
- 葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。
- 発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。
- 発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。

<発生確認後の防除の一例>（トマト・中玉・ミニトマト共通）

- トリフミン水和剤

葉かび病：3,000～5,000倍	収穫前日まで	5回以内
すすかび病：3,000倍	収穫前日まで	5回以内
- ファンタジスタ顆粒水和剤

2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内
--------------	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害
生理障害名

アザミウマ類

発生状況

多発生

発生時期

6月中旬～



写真：
花への寄生

写真：果実肩部分へのかすり状食害

発生の状況・要因

- 花や葉に寄生する。
- 果実の肩部分にかすり状の食害痕が発生し、商品価値が低下する。
- 通常、大きな問題にはならないが、高温が続くなどして、アザミウマ類の発生量が多くなると、被害の発生が見られる。

対策

- ほ場周辺の除草に努める。
- アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。また、葉に寄生している場合は、葉にかすり状の食害痕が見られるので、ほ場をよく観察し、発生の増加が見られたら、農薬による防除を行う。

＜防除の一例＞

- | | | | |
|-------------|--------------|--------|------|
| ●ハチハチ乳剤 | 1,000～2,000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| ●モスピラン顆粒水溶剤 | 2,000～4,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| ●ベネビアOD | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

写真：すいか(左)ときゅうり(下)に
 発生したアブラムシと被害葉

アブラムシ類

発生状況

少発生

発生時期

7月上旬～



発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

対策

- ・きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

- モベントフロアブル
 すいか・メロン・きゅうり 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- トレボン乳剤
 すいか 1,000倍 収穫3日前まで 3回以内
 メロン 1,000倍 収穫3日前まで 4回以内
 きゅうり 1,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

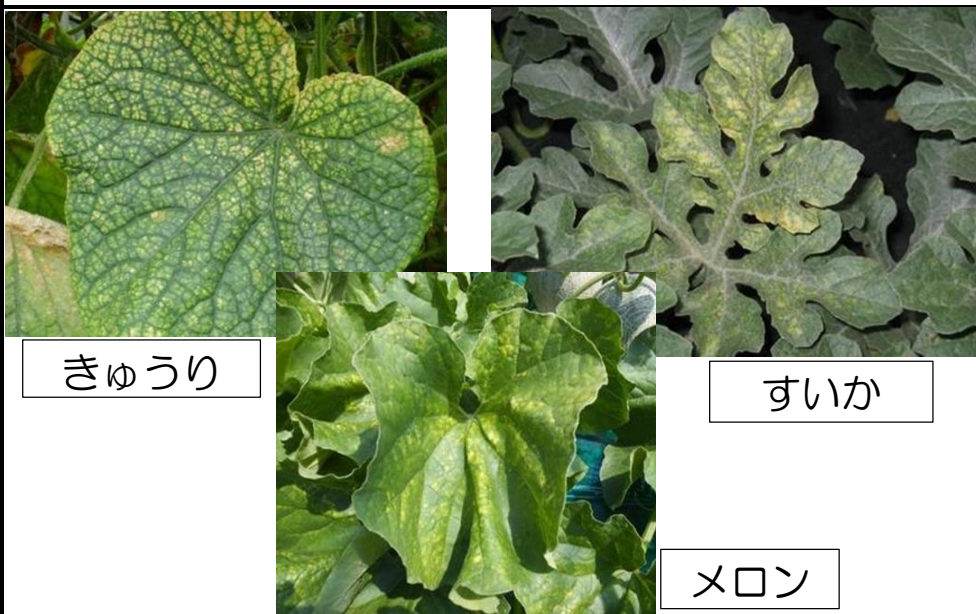
ハダニ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対策

- ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止めるローテーション防除を行う。

<防除の一例>

- マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回
 - ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内
- ※上記2剤はハダニの全ステージに効果あり

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害
生理障害名

コナガ成虫



コナガ

発生状況

少～中発生

発生時期

5月下旬～

コナガ幼虫



幼虫による葉の被害

発生の状況・要因

- 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- 6月は成虫、幼虫ともに継続的に発生が見られた。
- 7～8月が発生のピークとなることが多いため今後も注意が必要である。

対策

- ほ場周辺の雑草をこまめに除くことで、ほ場に飛び込む成虫を軽減させる。
- 侵入口となる隙間を作らないように防虫ネット（目合い1.0mm）を設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜など葉菜類全般

病虫害
 生理障害名

ウスカワマイマイ

ナメクジ類
 カタツムリ類

発生状況

少～中発生

発生時期

5月中旬～



チャコウラナメクジ

発生の状況・要因

- ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。
- 葉の食害の他、這った痕の粘液の汚れ、本体やフンの混入が問題となっている。
- 雨天時や夜間は活発に活動する。
- 7月中旬の大雨で、今後は発生が増加する恐れがあるため注意が必要である。

対策

- 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。
- ほ場周辺の雑草をこまめに除く。
- スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。

<防除の一例>

●スラゴ 1～5g/m² (3.3～16.5g/坪) 発生時

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。